令和４年度「税に関する作品」の入賞作品紹介

将来を担う児童・生徒に税金への理解・関心を深めてもらうため、須崎税務署管内租税教育推進協議会主催による「税に関する作品」の募集があり、町内からは書道と作文で入賞することができました。

税の使い道

四万十町立十川中学校　三年一組　芝　亜佳音

私は学校で税について教わりました。その時、もし日本に税というシステムがなかったらというアニメを見た。そして、アニメではいくつになっても働いていたり、町がゴミであふれていたりしていた。そこで私は、税金は約五十種類ほど存在することを知った。

調べてみると、税金は約五十種類ほど存在することを知った。その税金はすべての国民が平等に公共施設、設備や公共サービスを利用するための、国が行っている管理、維持、提供の費用として利用されているようだ。その内最も多く使われているのが「社会保障」で、二〇二一年度の支出の約三分の一を占めている。この「社会保障」は割合が大きいだけあって、国民の生活にとても重要な役割を果たしている。主に年金・医療・生活保護・介護・子ども・子育て支援の五つに分類される。どれも生活に欠かせないもので、年金は老後の生活に必要なもので、これのおかげで老後は働かずとも生活することができる。

二つ目は医療で、高い高い医療費が三割の負担で済んでいる。三つ目は生活保護。これは、病気や障害があったり、高齢で働けない生活するだけの蓄えがないなど、貯蓄や収入だけでは生活が困窮してしまう人を守るための制度である。四つ目は介護で、介護保険料の半分を税金によってまかなっている。五つ目は子ども・子育て支援。少子化の進む日本ではその対策として子育てしやすい環境作りが必要とされている。例えば待機児童の解消、幼児教育、保育料の無償化などに使われている。この五つどれも、国民全員がある程度平等に暮らす上で重要だと感じた。どうしてもお金の面での格差というものはできてしまう。それに、お金がないから病院に行けないなんてことがあってはいけない。だから、税というシステムは必要である。

ここまで「社会保障」について話したが、他にも税によって補われているものはたくさんある。例えば警察や消防、安定したインフラ基盤、教育が受けられる学校などもだ。

改めて税金がどんなものに使われているか考えてみたが、一番感じたことは税金がないと格差ができてしまうことだった。どんな人間にも生きる権利はあると思うから、そのためのものなのだと思った。

意外と身近な存在の「税」

四万十町立大正中学校　三年一組　杉本　薫

「税金」それは私には関係のないものだと思っていました。ある日、私は一人で買い物をしていると、消費税がすごく上がっていることに気づきました。私は、税はお年寄りや社会保障のために払っていると思っていたので、払う自分に利益があるとは思っていませんでした。

そんなある日、社会の授業で税について勉強しました。私はその授業で税には種類があり、「直接税」と「間接税」があることを知りました。また、国に納める主な税金を「国税」県や市町村に納める主な税金を「地方税」ということも知りました。そして、私たち中学生が教育を受けることのできるためのお金、教育費も人々が払う税から出ていることが分かりました。日本の社会は今、少子高齢化が問題になっていて、国の歳出の三十三・六パーセントを社会保障関係費が占めています。ですが、若い人が少なくなってきているので、税金を払う人が少なくなり、国の歳入が減っているので、国が国債を発行して得たお金、「公債金」が全体の四〇・九パーセントと半分近くを占めています。そして、公債金と同じような値段が社会保障関係費にかかっています。でも、一年の国の歳出が公債費を払うのに当てる国債費は、公債費の二分の一ほどにしかなっていません。国の歳出と国の歳入の額は同じなのに、歳出の種類が多いので、国債費に回せるお金が少ないので国の借金がいこうになくならず、消費税を高くするしか方法がないと私は思いました。また、税金にはどこかで震災や災害などの自然災害が起こったときに、起こった町や都市の復旧・復興のために使われる、復興特別税もあります。この税は、東日本大震災の被災者救援の目的で、作られたことが始まりです。

このように、税はお年寄りのためだけに払っているのではなく、小中学生の教育費や、自然災害の復旧・復興のために払うものです。

私は、税の勉強をしたことで、税は自分たちのためにも払うことを知りました。また、少子高齢化の影響で、税を払う人が少なくなってきていることも知りました。税は、日本の未来を変えたり、私たちの生活を成り立たせてくれるものです。だから、税金が高くなって税金を払うのがいやになっても、税金をきちんと払わないと、日本の公債金がどんどん上がってしまうので、税金を払うことは、すごく大切なことです。私は、これから生きていく上で、税金をきちんと払い、消費税が高くなっても文句を言わないようにしようと思いました。

最優秀賞

窪川小2年　岡田　悠希

金賞

窪川小1年　南部　聖奈

窪川小5年　西森　楓果

川口小4年　小野　さくら

東又小3年　岡村　唯菜

防災講演会が開催されました!

約150名が女性が参画する防災活動について学ぶ

１月22日、窪川四万十会館において、３年ぶりとなる防災講演会が開催されました。第一部では、仙台市地域防災リーダー大内幸子氏をお招きし、東日本大震災の経験から学んだ女性視点の避難所運営や住民自らが参加したくなる防災活動についてご講演をいただきました。

また第二部では、志和はちきん防災塾塾長諏訪加代子氏から、災害に強い女性を育成するために立ち上げた防災塾についての取組みが報告され、参加者からは「今後、地域の防災活動にも女性が参加し易い方法を考えていきたい」という声が聞かれました。

※講演会の様子は四万十ケーブルテレビの特別番組として後日放送予定です。